

# 評価結果報告書

## 地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
<b>合計</b>	<b>30</b>

事業所番号	1473600649
法人名	株式会社 ライフコミュニケーション
事業所名	ライフコミュニケーション泉
訪問調査日	平成21年3月2日
評価確定日	平成21年5月6日
評価機関名	社団法人かながわ福祉サービス振興会

**項目番号について**  
 外部評価は30項目です。  
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。  
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。  
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

**記入方法**  
 [取り組みの事実]  
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。  
 [取り組みを期待したい項目]  
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけています。  
 [取り組みを期待したい内容]  
 「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

**用語の説明**  
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
 家族 = 家族に限定しています。  
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。  
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。  
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成21年5月12日

## 【評価実施概要】

事業所番号	1473600649		
法人名	株式会社 ライフコミュニケーション		
事業所名	ライフコミュニケーション泉		
所在地 (電話番号)	神奈川県横浜市泉区和泉町3285-3 (電話) 045-800-6090		
評価機関名	社団法人かながわ福祉サービス振興会		
所在地	横浜市中区本町2-10 横浜大栄ビル8階		
訪問調査日	平成21年3月2日	評価確定日	平成21年5月6日

## 【情報提供票より】(平成21年2月1日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成15年12月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	15 人	常勤 11人, 非常勤 4人, 常勤換算 8.8人	

### (2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り 3階建ての 2階部分
------	---------------------------

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	80,000 円	その他の経費(月額)	83,000 円
敷金	有( 300,000 円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	1日あたり 1,500円		

### (4) 利用者の概要(3月2日現在)

利用者人数	16 名	男性 3 名	女性 13 名
要介護1	0 名	要介護2	1 名
要介護3	3 名	要介護4	7 名
要介護5	5 名	要支援2	0 名
年齢	平均 82.4 歳	最低 61 歳	最高 96 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	西横浜国際総合病院、コンフォート北鎌倉台クリニック、岩本歯科医院
---------	----------------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

このグループホームは、相鉄いずみ野線いずみ中央駅から徒歩10分ほどの住宅地の一角に位置している。建物は鉄筋コンクリート造り3階建ての1~2階を使用している。玄関には季節の花を飾り、各ユニットの入口には利用者の作品のミニ生け花や油絵、手作りのお雛様などを飾っている。  
職員は毎朝理念を唱和して「リーダーである入居者」をチームワークで支え、笑顔の絶えないアットホームな事業所を実現している。  
自治会に加入し、地域の防火訓練に参加したり、介護教室を開催して地域の方々と交流している。協力医療機関の内科医・歯科医による週1回の訪問診療や年1回の健康診断をはじめ、必要な方には血液検査や予防接種(インフルエンザ)により利用者個々の健康維持に努めている。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の訪問調査では課題とされた項目はないが、調査後の話し合いの中で利用者の髪のカットや着衣の汚れについて話題となり、ミーティングの中で職員に話をして注意を促し、課題として取り組み、改善された。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>全体会議の中で管理者より、評価の意義や目的について説明し、自己評価については職員全員が各項目について話し合い、管理者がまとめた。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は、3ヶ月に1回開催している。会議では、ホームの活動状況や外部評価について報告している。また、会議で取り上げられた検討事項や懸案事項についても報告し、出席者から助言をもらったり、要望事項についても話し合い運営面に反映するよう努めている。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>利用者の暮らしぶりや健康状態について定期的に写真や手紙で報告している。小遣いは法人の立替払いで、毎月清算している。苦情や要望については、投書箱を設置したり、家族懇談会や運営推進会議の中で聞き、運営に反映するようにしている。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>自治会に加入し、地域の防火訓練、お祭りや盆踊りに参加している。また、介護教室を開催して近隣の方に参加してもらっている。ボランティアからは家庭菜園で土作り、タネのまき方、育て方を教えてもらい収穫を共に喜び、敬老会では、手品や楽器による演奏などを観賞し楽しく交流している。</p>

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の理念とホームの理念がある。事業所の理念は「リーダーシップは入居者である。その方の個性・尊厳・生命を守り活力ある生活を支え寄り添うようなケアをする」で、利用者を支え、家族や職員が信頼し合いアットホームな笑顔の絶えない生活を送れるように努めている。		
	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は、各ユニットの玄関やリビング、職員の更衣室に掲示して職員をはじめ訪問者の目にも留まるようにしている。職員については、入社時のオリエンテーションや毎日の朝礼で唱和して意識付けをするようにしている。また、運営推進会議や介護教室開催時にも理念について話している。		
2. 地域との支えあい					
	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、地域の防火訓練、お祭りや盆踊りに参加したり、介護教室を開催して近隣の方に参加してもらっている。また、ボランティアからは、家庭菜園で土づくり、タネのまき方、育て方を教えてもらい収穫を共に喜び合い、敬老会では、手品や楽器の演奏などで楽しく交流している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	サービス評価の意義や目的については、職員に説明し、理解を得ている。自己評価については、全体会議の中で話し合い管理者がまとめている。前回課題とされた項目はないが、調査後の対話の中で話題となった利用者の髪のカットや洋服の汚れについては職員に話をして注意を促し、課題として取り組み改善された。		
	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、3ヶ月に1回開催している。ホームの活動状況のほか自己評価や外部評価についても報告している。検討事項や懸案事項について出席者から助言をもらったり、要望について話し合い、運営面に反映するよう努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	区の担当者や情報交換をしたり、また、グループホーム連絡協議会の下打ち合わせや介護教室の内容についてアドバイスももらっている。区の担当者が来訪して、職員や利用者とも交流している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の暮らしぶりや健康状態について定期的に写真や手紙で報告している。家族の訪問時には声をかけて日常の様子を報告し話し合いをしている。利用者の小遣いは、ホームが立替払いし、毎月立替明細書と領収書により清算している。利用者自身で小遣い管理をしている方はいない。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情や要望については重要事項説明書に明記されており、入居契約時にわかりやすく説明している。玄関には「投書箱」を設置したり、家族の訪問時や家族懇談会、運営推進会議で苦情や要望を聞き運営に反映するように努めている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人はグループホームの運営について理解し、職員の異動に関しても管理者の意見を聞いて対応している。基本的には、職員を固定化し、部屋担当を決め、顔なじみによる職員のケアを心がけている。新しい職員の場合には、2~3ヶ月OJTにより指導して、その後ローテーションに組み入れている。職員の異動や退職については家族に報告している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修は、毎月職員が交代で講師を務めテーマを決めて発表している。また、ホームとして職員個々に資格取得を勧めてその過程で勉強することによって専門的な知識を持つように指導している。外部研修では、参加後に報告書を提出し、内部研修時に発表して共有を図るように努めている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のグループホーム連絡会や市の高齢者グループホーム連絡会に参加し、情報交換をしたり、研修会、講演会に職員を参加させ、サービスの質の向上に努めている。また、グループホーム同士の職員交換研修を通して交流を図っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居にあたっては、ホームの雰囲気や生活に馴染めるかを判断するため、本人や家族に見学してもらいホームの内容を説明し、生活の状況、雰囲気などを体験してもらいアセスメントを行っている。入居まで2週間ほど時間をかけて他の利用者とも信頼関係が保てるように工夫をしている。		
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者は日々の生活の中で、散歩、買い物、洗濯物たたみ、食事前のおしぼり作り、後片付けなど、それぞれの得意分野で力を発揮している。職員は利用者個々の状態を把握しており、本人のペースと一緒に生活している。利用者からは、習字、お花、戦争の話や言葉遣いを教えてもらっている。		
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時のアセスメントにより生活歴や趣味を知り、家族や関係者の情報や日々の生活の中での会話、表情などから利用者の思いや意向を汲み取るように努めている。思いや意向の把握が困難な方については、時間をかけて目の動き、表情、行動などから把握するように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居時の介護計画は、アセスメントを基に、本人や家族の要望を聞いて作成している。継続時は、医師のアドバイスを書き取った往診記録、職員が観察した内容を記録した、ケース記録、バイタルチェック票、申し送りノートや前の介護計画を参考にしてカンファレンスで検討し、本人や家族の要望を聞き、現状に即した介護計画を作成している。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の見直しは、入居から本人の心身が安定するまでは1ヶ月ごとに、安定後は6ヶ月ごとに行っている。また、利用者の心身に変化があった場合は、その都度見直ししている。見直したプランは本人や家族に説明し、了解を得ている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	協力医療機関の内科医、歯科医による週1回の訪問診療を受けている。年1回の健康診断をはじめ必要な方には血液検査、全員にインフルエンザ予防接種などを行って利用者の健康維持に努めている。利用者の心身の状況に応じて医師といつでも相談できる体制がある。月2回、ボランティアによるヘアカットサービスを受け入れている。		
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療機関は、基本的には本人や家族の意思を尊重して決めている。現在は、本人や家族の希望で協力医を利用している方が多い。以前からのかかりつけ医を利用している方が2名いて家族が通院介助している。家族の同行が不可能な場合はホームの職員が同行している。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	現状のホームでは終末期の利用者の受け入れは困難であるため、入居時に本人や家族に他の施設か病院を紹介して移ってもらうことを説明し、同意を得ている。重度化した利用者については、家族や医師と相談して出来る限りの対応をして支援している。職員は、ターミナルケアについての研修を受けている。		
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は、管理者から利用者の個人情報の取り扱いについて説明を受けて、理解している。利用者、家族とは「個人情報使用同意書」を取り交わしている。日常生活の中で利用者の尊厳やプライバシーを損ねるような言葉かけや対応をしないように十分配慮している。利用者の個人情報に関する書類は事務室の書庫の中に保管している。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日のホームのスケジュールはあるが、利用者のペースにそって見守りながら一緒に生活している。起床、食事、後片付け、入浴、散歩、家庭菜園での作業など一人ひとりのペースを大切に、ゆったりと生活している。また趣味なども利用者の思いや状態に配慮しながら柔軟に対応している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	1階の職員は、利用者と一緒に食卓を囲み楽しく食事をしている。それぞれが自分のペースで食事をし、できる方は食器を下げたりして後片付けを手伝っている。2階は、要介護度の重い方が多いが、職員は同じテーブルについて、笑顔を忘れずに話しかけながら利用者の介助や食べこぼしの片付けに、柔軟に対応している。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援  曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	希望があれば毎日でも入浴できるようにしているが、利用者は週2～3回のペースで、午後から夕方の時間帯に入浴している。利用者の希望やペースに合わせてゆったりと入浴できるように支援している。入浴をしたがらない方には、間を置いて言葉をかけるなど柔軟に対応している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の生活歴や経験から、できることを見極め、掃除、買い物、洗濯物たたみ、食事時のおしぼりの用意、後片付け、趣味の習字、ミニ生け花、カラオケ、家庭菜園での土作り、種まき、収穫など役割や楽しみごとを見出せるように支援している。		
25	61	日常的な外出支援  事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	職員は利用者のその日の体調に配慮しながら地域の催し物(夏祭り、盆踊りなど)に参加したり、散歩、買い物、外食、季節の花見、ドライブなど外出の機会を増やすように工夫している。歩行の困難な方は車椅子で家庭菜園やベランダに出て、外気浴をしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践  運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	建物の玄関は、防犯上オートロック式ドアにしている。各ユニットの出入り口は施錠せず鈴をつけて人の出入りを確認できるように工夫したり、職員の見守りや連携に取り組んでいる。近隣には年2回挨拶に回り見守りや連絡をしてもらえる関係を築いている。居室には鍵があるが、職員が施錠することはしていない。		
27	71	災害対策  火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	建物内の防火設備は、自動火災報知機、非常通報装置、防火扉、誘導灯、消火器などをそろえている。消防署の協力を得て年2回防火・避難訓練を実施している。またホーム単独でも年2回避難訓練を実施している。まだ少数ではあるが近隣の方の協力を得ている。災害時の非常用食料や飲料水は建物内に3日分備蓄している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は、利用者の要望を聞き職員が作成している。朝・昼の食事は夕食のカロリーを基に職員が献立を考え、利用者と一緒に職員が作っている。夕食は、カロリー計算された献立付きの食材を業者に依頼し、職員が作っている。食事や水分の摂取量は入居者ごとにチェック表に記入して把握している。		栄養士等の専門家に定期的に献立をチェックしてもらうことが望まれる。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には、季節の花などを飾り、各ユニットの入口には、泉流のミニ生け花や手作りのお雛様、利用者の作品の油絵を飾っている。室内には切花、絵、利用者の作品やテーブル、椅子、ソファ、テレビや加湿器を置き、写真を飾り、日中はCDによる音楽を流し、穏やかな生活が送れるように工夫している。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、クローゼット、整理ダンス、洗面台が備え付けてある。利用者は、使い慣れた馴染みのベッド、テレビ、時計、椅子、ぬいぐるみ、家族の写真や位牌などを持ち込み安心して過ごせる部屋づくりをしている。		

# 自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

## 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
・理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
・安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
・サービスの成果に関する項目	13
合計	100

## 記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

## 用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## 評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目( 1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目( 88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	ライフコミュニケーション 泉
(ユニット名)	泉 1
所在地 (県・市町村名)	神奈川県横浜市
記入者名 (管理者)	植木 清美
記入日	平成 21 年 1 月 10日

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

↑  取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>・理念に基づく運営</b>				
1. 理念と共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	運営理念を掲げ、理念に基づきけを行えるように心がけている。 理念として、入居者様の一人一人の個性や尊厳が守られ寄り添うケアを行うように掲げている。		運営理念は、毎朝朝礼で唱和しており、意識するように心掛けている。玄関、ホール、スタッフルーム、事務所、各ユニットの玄関などに掲示している。 今後も継続し、理念に沿ったケアを心掛けていきたい。
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	新任研修や内部研修などを通し、随時理念については、意識できるように行っている。		新任職員の研修や内部研修などに盛込んで、良いケアが今後も、行う事が出来る様に、職員の意識を高め共有していきたい。
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	家族懇談会や運営推進会議などで、報告し少しでも、理解して頂けるように取り組んでいる。		地域とこ交流を大切に今後も取り組んでいきたい。 また、運営推進会議などを通して、グループホームを理解して頂けるように努力していきたい。
2. 地域との支えあい				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りてもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	夏祭りや、カレーパーティーなどの行事の際は、近隣の方に声掛けをして来て頂くようにしている。また、家庭菜園で収穫した野菜などをお持ちしている。回覧板を回す時、ご挨拶を欠かさないように心掛けている。		近隣の方にお会いした時は、挨拶はもちろんの事だが、年に2回は、挨拶まわりをするように心がけている。 また、現在3階フロアがあいている為、近隣の方に活用して頂けるように、近隣に声掛けし、民生委員の研修などにも利用していただいている。
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入しており、避難訓練や夏祭りなどに参加させて頂いている。		地域活動については、入居者様の身体的機能の低下に伴い、一緒に参加する事が難しい事もあるが、できるだけ地域活動に参加し、地域の方と交流を持ち楽しく過ごせるように心掛けていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	介護教室の開催。また、運営推進委員会議の実施などにより、お伝えしていく場が増えていると思われる。		今後は、もっと積極的に取り組んでいきたいと思っている。民生員の研修などに参加させて頂いたりしているが、数的に少ないように思われる。今後は、意識を高めていきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員会議などで外部評価の実施について、話し合いの場を持ち自己評価についても、共通の認識をもつように取り組んでいる。		改善点の見直しを課題に、今後も、向上していくように職員全員が取り組んで行くよう努めていきたい。
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、3ヶ月に1回の割合で開催しており、状況報告している。会議では地域住民代表の方に、アドバイスを頂いて日頃のケアに活かしている。		運営推進会議にて、外部評価の報告を行っている。地域住民代表から良いアドバイスをいただくことが多く、とても有意義な運営推進会議であると思っている。今後も継続してくよう、努力したい。
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議の発足をきっかけに、市町村担当者と接する機会が増え、疑問点などわからない事は、気軽にお伺いするようになり身近に感じるようになった。また、市町村担当者も見学に来て頂いたり、介護教室のアドバイスなども頂いている。		直接窓口にも、伺うこともありますが、電話やメールでも必要に応じ行っている。市町村の窓口に行くようになり、市町村と共にサービスの質の向上に取り組んでいるという実持てるようになったが、今後も質の向上を目指して、頑張りたい。
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	できるだけ研修には、交代で出席するようにしており、学ぶ機会を作るようにしている。必要に応じ、情報提供できるように心がけている。		後見人制度を利用している方はいますが、全体的には少ない。情報をお伝えできるように今後も研修などを行っていきたい。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人でも力をいれ研修をしているが、全体研修で職員が全員高齢者虐待防止について理解できるように、行っている。研修の中でも重要なことであり、虐待などあってはならない事と職員が意識するよう努めている。		虐待行為のないよう、周知徹底していく。また、虐待には、言葉によるものも含まれることを認識し言葉使い、マナーについてしっかりと学のように研修に取り組み、チェック表を作り心がけている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>入居前には必ず、重要事項説明書を読み説明している。また、理解、納得されるように説明を行っているが、必要に応じ疑問点などその都度行っている。説明の後に、何かわからないことがありますか？と聞くように心掛けている。</p>		<p>必要に応じ、その都度、対応させて頂いていますが、不安や疑問がないよう対応していきたい。</p>
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>入居者様が必要としている物や要望、不満などをお聞き出来るように、職員を居室の担当として決めて対応している。いつでも、自分の気持ちが、気軽に言えるように配慮している。</p>		<p>要望・意向に沿えるよう取り組んでいきたい。クレーム対策委員会があり、毎月会議を開催している。実際クレームが、現在のところないが、事例検討として研修をかねて行っている。ファイルもある。</p>
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>定期的に行っているが、状況に応じ、連絡している。来設時には近況の報告をしている。受診時の連絡など電話にて報告している。</p>		<p>写真やBP表をお送りして、近況報告している。体調不良時などは、必ず連絡をいれ受診する事を、確認してから受診し、その後の連絡も入れるようにしているが、ご家族と共有できるよう、入居者様の状況把握に努めていきたいと思っている。</p>
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>定期的な家族懇談会を行っている。御家族をお呼びしてイベントを定期的に行っている。玄関に投書箱が設置してある。その都度、ご要望があれば、お受けしている。</p>		<p>家族懇談会などで、自由に意見が言えるように配慮している。懇談会の中で、ご家族様それぞれに、意見やイベントなどの感想を言って下さる為、参考になっており、次回につなげることが出来る。</p>
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>全体会議やニュット会議を持ち話し合いをするようにしている。また、介護長会議の報告を行うようにしている。</p>		<p>頻繁に会議を持つようにして、職員の意見が反映出来る様にしていき今後も、サービス向上につなげていきたい。</p>
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>職員の配置に関しても、確保出来ていると思う。近隣からきている職員がおり、状況に応じて出勤が可能。夜勤者も、夜勤専門ではなく、馴染みの職員である為安心できる。</p>		<p>ユニット内で調整して対応しているが、兼務の非常勤職員がいるため、必要に応じ勤務して頂いている。今後も無理のないように、柔軟に対応できるような体制をとって行きたいと思っている。</p>
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>人事異動は比較的少ない。法人は、グループホームの運営について理解を示しており、職員の異動に関しても、管理者の意見を聞いて対応している。代わる場合でも、最小限度に抑え、必ずご家族様には報告させて頂くようにしている。</p>		<p>異動により、入居者様やご家族様との信頼関係が希薄にならないように、配慮すると共に今後も馴染みの関係を構築していけるように、努力していきたい。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修や外部の研修など積極的に参加するように職員は交代で参加している。法人の研修では、管理者研修や主任研修などを行っている。		出来る限り、内外の研修に参加している。また、外部研修に参加した場合は、内部研修などで報告し、共有出来る様心がけている。
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	横浜市や神奈川県グループホーム協会に入会しており、協会の主催する研修などに参加し、情報交換や交流を深めている。		他のグループホームの職員と交流の場を設け、積極的に自分の職場だけでなく、視野を広げるようにしていきたい。また、サービスの質の向上を目指すよう取り組んでいきたい。
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	親睦会を定期的に行い、(3ヶ月に1回)カラオケなどで発散できるようにしている。また、食事会についても、イベントの打ち上げなどを兼ねて行っている。		定期的に行っているが、継続していきたい。職員には好評である。時々、食事会などを行い、コミュニケーションを図るようにしている。
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員の個性や、得て不得手を理解し、得意な分野を生かすようにしている。		イベントなど得意な分野を発揮出来る様な機会を作っている。職員の健康管理については、健康診断を定期的に行っている。勤務条件に関しても、就業規則に沿って守られている。
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	傾聴や会話する時間を多く設けるようにし、コミュニケーションを図るよう心がけている。		御家族より情報収集し、早期把握に努め、スタッフ間の情報の共有に努めている。状態を把握し、状況にあった対応ができるように支援していくよう今後も努力したい。
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居前のご相談については、ゆっくりとお話を伺う時間を取るように心掛けている。また、入居されてからも、生活の様子などを連絡しご家族様との信頼関係を築いている。ご家族様から、ご相談があった場合は、時間を作り、お受け		信頼関係の構築に努めていく。お話を聞く時間、態度などには充分配慮し、受け止める姿勢をもち、安心して相談ができるような体制をとっていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要とされている支援を把握し、優先順位や適切な対応が行えるように心がけている。 まずはお聞きすることが重要と思っている。その後の対応は必要に応じ、他のサービス機関につなげている。		早期対応を心掛け、状況に応じた適切な支援を行うように努める。また、相談者のニーズを的確に捉え、対応出来る様取り組んでいきたい。
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ご家族様やご本人の意思尊重しながら、少しずつ雰囲気馴染んでいただけるように、必要に応じ声掛けをしたり、今までの生活歴などを把握し、一気に全てを変えるのではなく安心して生活出来るように工夫している。		ご本人が、安心して生活出来る様に、温かく見守り信頼関係を築くように心掛けている。
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者様の得意な分野などを把握し、共通の話題を楽しみ喜びあったり、昔の事を思い出していただくように努めている。 また、生活の中で役割などがあり、喜んで取り組めるよう工夫している。 (お花の先生をしていた方に、お花を飾っていただくなど。)		ご本人の個性や、得意な分野などを十分に引き出し個々の残存能力に応じた支援を継続していきたいと思う。また、いつでも、入居者様と一緒に、寄り添って必要に応じたケアを心掛けていきたい。
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様の抱えてきた、苦労や不安などを少しでも、共にできるように、声掛けを行い、気軽に相談して頂けるような雰囲気作りを心掛けている。		ご家族様が面会に来られた際は、必ず声掛けをして、近況報告すると共に、ご心配などをお聞きするようにしている。今後も信頼関係を維持していくよう努力していきたい。
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ご家族とご本人の関係が築けるように、面会時など食事やおやつなどを一緒に頂くようにするなど支援している。		ご家族様と入居者様との関係がより良い関係に今まで以上になるように、今後も支援していきたい。
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今まで係わって来られた、関係が途切れないように心掛けている。 昔の学校の友人からお電話が、時々ある方や御家族様からお電話を取り次いだりしている。		馴染みの関係や場所などが途切れないように、今後も支援していきたい。
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	入居者様の中にも、気の合う方、合わない方などがいらっしゃると思うが、職員が把握して、毎日の生活が楽しく過ごせるように支援している。		入居者様同士が関わり合っていけるように、必要に応じて、職員が間に入り支援するように努めていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	ご家族様に連絡をとり、その後の様子をお聞きしている。病院に入院されている場合などは、お見舞いに行くようにしている。		お年賀状をお出ししたり、面会に伺ったりしている。出来るだけ、継続できるよう意識していきたい。
<b>・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	自分の思いや希望を言葉で表す事が出来る方だけでなく、思いを表すことが困難な方であっても、顔の表情や今の辛い表情などをくみ取り、一人ひとりの把握に努めている。		入居者様の一人ひとりの思いを把握しこれからも、意向に沿えるように努力していきたい。
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴や個人を尊重するように努めている。家族との話しの中での情報を得るように心がけている。		ご家族様からも情報を得るなど、出来るだけ多くの情報を収集し、その方らしい生活が守られ、継続して行くことが出来る様に、支援していきたい。
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	一人ひとりの生活習慣などを把握し、状態観察に努めている。排泄などチェック表の使用により、排便などの確認をするなど、把握に努めている。		1日の流れの中で、その方らしい生活ができるように体調の変化や精神的な変化など総合的に把握し、支援できるようにしていきたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	訪問診療の医師やご家族様と相談しながら行なっている。また、カンファランスを行い、介護計画に反映させている。		個々に応じた介護計画を作成するよう今後も行なっていきたい。また、日々の生活に反映したケアプランを作成し、実行していきたい。
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的に見直しをしているが、退院時や状況の変化にも応じている。ご家族様はもちろんの事、主治医などの指示があった場合反映するよう心掛けている。		現状に応じて見直しを行っているが、状況をしっかりと把握し介護計画作成に、取り組むよう努力したい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	情報を共有する方法として、朝の申し送りや業務日報などで確認して、介護記録に反映するようにしている。		情報の共有・申し送りなど周知徹底していく。 介護記録にもきちんと記録するようにしていきたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入居者様やご家族様のニーズに応じて訪問診療や訪問歯科診療、ビューティーヘルパーなど利用している。		要望に応じて柔軟に対応出来る様にしていきたい。 訪問歯科は、1週間に1回、ビューティーヘルパー(訪問理美容)は、1ヶ月に2回来訪される為、希望があれば、対応している)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	運営推進委員会のメンバーに民生委員の方がおり、家庭菜園などのボランティアも兼ねて、色々とアドバイスを頂いている。 家庭菜園のじゃがいも植えなど、肥料についても教えていただいている。		自治会主催の消防訓練なども参加している。 地域資源の活用を今後も、多く取り入れていきたい。
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	地域包括支援センターの主任ケアマネージャーにアドバイスを頂いたり、必要に応じ連携を取りながら、対応している。		必要に応じ、他のサービス業者への連絡などを行なって行くように努める。
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターなど、必要に応じ連絡を密にして行くように思ってる。 推進会議にて、オブザーバーとして地域包括支援センターの主任ケアマネージャーと協働している。		今後も、長期的に協働出来る様にしていきたい。 民生委員の方の協力も頂き、多面に渡り関わりを持っていくが、これからもお願いしていきたい。
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院などがあるが、本人の希望やご家族様の希望をお聞きして、受診先を決めている。		昔からのかかりつけの病院など優先している。 これからは、ニーズに応じていきたい。 (緊急時などは、近隣の病院を優先している)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	専門の先生に診て頂いている。医師との関係についても、入居者様や職員も相談しやすく、良い関係を保持している。		専門の医師の確保については出来ている。また、訪問診療の医師も相談しやすく入居者様の状態を把握している。長期にわたり信頼関係を、保持していきたい。
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護職員は現在、常駐していないが法人内に勤務している為、相談などがいつでも可能である。		健康管理については、必要に応じて今後も相談していきたい。(現在は、主治医との連絡が多い)
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	退院に向けての取り組みは、退院計画書など病院からの計画書を元に、ご家族様と相談しながら、早期退院に向けて取り組んでいる。また、出来るだけ入院している期間を短くし、認知症が進まないように対応したいと思っている。		早期退院に向けて今後も、積極的に取り組んでいきたい。
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末のケアについては、ご家族様と面談するようにしているが、主治医も入って頂いて、面談している。その結果、職員にも伝え情報を共有するよう努めている。		職員間でケアカンファランスを開催し、情報を共有するよう努めているが、日頃からご家族様と信頼関係をもち、繰り返し話し合っていく必要性があると思われる。
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	主治医の指示の元、ご家族様と終末についてご相談し、意向をお聞きして可能な範囲内で対応している。現在のところ、看護師がいない為、常に何か変化があれば、ご家族様に連絡し受診して対応している。		終末期のケアについては、今後の課題でもあると思うが、現在のところ、出来る限り、主治医と相談し指示のもとケアを行なっている。
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	なじみの物や使われていた物を持って来て頂いている。以前の暮らしを継続出来る様に心がけている。移動時には、細かい申し送りを行い継続できるように努めている。		御家族よりプライバシーに配慮しつつ情報を収集している。以前の暮らしを継続していけるように配慮していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>プライバシーについては、十分に注意している。自尊心を傷つけないような声掛けを心掛けている。個人情報についても、漏洩のないよう注意を払っている。</p>	<p>個人情報取り扱いについて研修を行ない、守秘義務の遵守の周知徹底を行なうよう努めているが、さらに、研修を重ねていきたい。</p>
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>意向や要望を伺うようにし、自己決定を促すようにしている。献立を作るとき等、何にするかを、お聞きしたり、作り方や好きな食べ物などをお聞きしたりしている。</p>	<p>自己決定が出来ない方も、自己表現できるように声掛けを多くし、本人の思いを表現できるよう努めていきたい。</p>
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>個人のペースにあわせ個別ケアするように心がけている。食事の時間が、個人によって遅くなることもあるが、個人のペースを大切にしている。</p>	<p>個人を尊重したケアを行っていきたい。時間の都合や職員の都合ではなく、ゆっくりと過ごせる様に努めていきたい。</p>
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>本人の行きたい美容室に行かれることも、以前はあったが、現在は、入居者様の要望が無い為、訪問理美容の方にやって頂いている。髪型などは本人に、お聞きするようにしている。</p>	<p>身だしなみは、理美容だけでなく、衣類などにも気を付けるようにしている。職員と一緒に洋服を選んだり、髪の毛をとかすなど行なっているが、身だしなみに興味をもつような声掛けをしていきたい。</p>
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>献立作りを一緒に行なったり、テーブルを拭いて頂いたり、おしぼりを作っていたりなど食事の準備を、手伝って頂くようにしている。</p>	<p>食事は入居者様と同じ物を頂いている。また、出来るだけ家庭的な雰囲気ですぐに食事がいただけるように、努めているが今後も継続し、温かい雰囲気を大切にしていきたい。</p>
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>嗜好も一人ひとり異なるため、できるだけ聞いて対応するように心がけているが、意志表示できない方には、顔の表情から読みとり、中でもたくさん召し上がっているものなどを把握するようにしている。</p>	<p>嗜好品については、ご本人やご家族様にお聞きして用意できるものはしており、ご本人の要望があった時お出ししている。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄パターンを把握するように努めている。定時に排泄介助を行っているが、状況をみて随時、行っている。		自尊心を傷つけないような声かけ・誘導ができるように配慮していきたい。
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日については、日曜日以外は毎日、入浴できる体制をとっている。日曜日は、ご家族様の面会が多いため、ご家族様との時間に当てて頂いている。		入浴の楽しみ方として、昔ながらの風習を大切にしている。ゆず湯、菖蒲湯などを楽しんでいただくよう工夫していきたい。
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	良眠できるように、生活のリズムを整えたり、日中も、個別に休息の必要な方には、対応している。		ご本人に合った生活のリズム作りを心がけているが、今後も行っていきたい。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	役割や楽しみを持ち生活の張りを持つように努めている。レクリエーションやイベントなど楽しんで頂けるようにしている。家庭菜園の野菜などを時々、見に行き収穫を楽しみにしている。		家庭菜園をおこなっており、収穫している。また、収穫したものでご家族様、近隣の方をお招きしてカレー - パーティーなど行いイベントで楽しんでいる。毎年恒例で、御家族様にも好評です。
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理については、事故防止のため、法人で立替するということが、決められているが、外出した際お金のお支払いなど職員と一緒にするなど支援している。		現金などを使用する機会が少なくても、会話の中でお金のことを忘れないような工夫をしていきたい。
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	夏祭りや近隣の牧場に買い物に行ったり、食事やおやつを食べにでかけている。		外出する機会を多く設けるようにしていきたい。
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	梨狩りに出かけるなど、楽しめるように、外出をこころがけているが、全体的に少ないように思う。		外出は、身体的機能の低下もあり、年々少なくなっているように思われるため、今後は、意識して外出を行っていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	お電話をしたいと希望があった場合などは対応している。また、お手紙が来た時は、お渡しして、届いたお礼のお電話などの支援をしている。		ご家族様と入居者様の手紙のやりとりや、お電話でお話する機会をもっと多く持てるように支援していきたい。
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	いつでも面会に来られるよう時間制限をしていない。ゆっくり過ごせるよう配慮している。		ご家族様や知人の方もたくさん訪問にきて頂いている。一緒にお茶などを召し上がって、ゆっくりと談話できるように心掛けている。
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人でも身体拘束廃止委員会を設置し、身体拘束廃止については、力を入れて取り組んでいる。また、内部研修にても再確認し、拘束のないケアに取り組んでいる。		職員は、拘束0を目指す事を意識するように、日頃から取り組んでいると思う。また、どうしても必要な場合が生じた時は、ケースカンファランスを開催し、検討するように心掛けていきたい。現在は、対象者はいらっしゃらない。
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけない工夫は行っている。玄関に鈴をつけ、出入りには注意している。鈴をつけるなどの工夫については、職員間で鈴の音もどのような物にするか、検討してつけている。		外玄関のみオートロック式になっているが、その他の部分には鍵はかかっていない。見守りを強化し、事故防止に努めるよう取り組んでいきたい。
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	安全確認表を作成し、1時間ごとにチェックしているが、チェック表のみに頼らず見守りを強化して、利用者様の安全確認を行なっている。		日中は、出来るだけリビングに来て頂きコミュニケーションをとるようにしており利用者様の様子が、わかるように配慮しているが、今後も利用者様の安全面を注意していきたい。
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	基本的には、危険性のある物は、鍵をかけて保管するようにしている。ただし、職員と一緒に、レクなどではさみを使用するなどその方の状態に応じて、行っている。		入居者様の状況に応じた管理方法について、具体的に1つ1つ、検討していきたいと思う。その時の状況によっても違うと思う。
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ひやりはっとを活用している。法人でも事故防止には力を入れて取り組んでいるものの1つ。職員も出来るだけ、ひやりはっとを提出し、毎月分析している。		安全対策委員会を設けて、取り組んでいる。ひやりはっと報告書は、職員が共有できるように、目を通して捺印するようにしている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	救急法など消防署にて研修があった場合、出席している。内部研修にて報告して、情報の共有に努めている。また、体調不良時の対応マニュアルがあり、参考にしてている。		夜間帯の救急対応については、マニュアルがあり夜間緊急受診した場合も、サポート要員が対応するため、安心して、受診に付き添うことができる。
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	非常用の食料、備品は常備している。消火器、避難路についても定期的に設備点検している。避難訓練も自主訓練を行っている。		地域との避難訓練は、自治会の訓練と一緒に参加
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	ケアプランの面談時などにお話させていただいたり、お電話などでも、必要に応じてご連絡させて頂いている。		ご家族様と連絡を密にして、リスクを最小限に止められるようにしていきたい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	体調変化の早期発見のため、1日2回のバイタル測定を行っている。また、数値のみに頼らず、日頃より様子観察を行い、少しでも気が付いた際には、他職員に報告し情報を共有すると共に、ご家族への連絡を行うようにしている。受診が必要な場合、速やかに対応している。		入居者様の状態には常に注意して様子観察するように努めているが、入居者様の身体機能に伴い、早期発見と迅速な対応が必要と思われるため、日頃のバイタルチェックを欠かさないようにしていきたい。
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬チェック表などにて確認するようにしている。また、処方内容をファイルしており、いつでも見て確認することが可能である。		服薬に関する研修を行ったことがあるが、開催数が少ないため、定期的に、情報を共有するために、今後も開催していきたい。
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	下剤を出来るだけ使用せず、食事やおやつなどで便秘解消出来る様にしている。毎朝、ヨーグルトや飲むヨーグルトを付けるようにしている。下剤の使用については、医師に相談し、指示のもと行っている。また、下剤の種類についても、ご本人の状態にあわせて指示して頂いている。		身体機能の低下により、便秘になりやすく自然排便が困難になっているため、食材やメニューで工夫するようしていきたい。
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	口腔ケアについては、毎食後行っている。また、義歯洗浄も行っており、歯磨きが難しい入居者様には、口腔清拭をしている。毎週、訪問歯科診療があり、医師に相談しながらケアを行っている。		清潔の保持に努めて行きたい。職員が口腔ケアの重要性を認識する為に、研修に参加し報告会を行い、情報を共有している。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分、食事摂取量などのチェック表を作成し、一人一人を把握している。また、1日の水分トータルなども、記入している。		栄養計算は業者のメニューをお願いしている為、1日1食の分は、栄養計算ができています。
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症対策マニュアルがあり、法人でも研修を行ったり、区役所主催の研修にも参加し、内部研修にて発表するなど共有している。		マニュアルに沿って実施している。また、職員が手洗い、うがいのポスターを作成し、励行している。職員も、出勤時必ず行ってから、仕事に入るようにしている。
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食材については、十分に注意している。業者に発注した場合、納品時には確認している。また、食器や調理器具についても毎日チェック表を用いて消毒している。食材の賞味期限のチェックも行っている。		食器や台所、調理器具などの衛生管理には充分注意していきたい。消毒などに関しては、マニュアル化しており、今後も取り組んでいきたい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関の周りには、季節のお花などガーデニングして、グループホームらしい生活感のある雰囲気作りをしている。		玄関周りは、明るいイメージを心がけている。玄関ドアも2枚扉になっているが、自動ドアになっているため、出入りしやすい。
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	やすらげる空間や場所をつくるように心がけている。また、場所だけでなく、観葉植物や季節の花などを飾り、落ち着いた雰囲気になるように、意識しています。また、音楽などを流し穏やかな生活ができるように工夫しています。		トイレなどにもカレンダーなどを掲示し、少しでも落ち着いた、家庭的な雰囲気に努めている。
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングの周りに、いつでも自由に座れるように、椅子とテーブルを設置しており、フロアを歩きながら時々休憩出来る様に工夫している。また、喫煙場所を設けて他の利用者に配慮しているが、現在は、喫煙する方は、いらっしゃらない。		安らげるような工夫は大切だと思われる。グループでのコミュニケーション作りも重要ではあるが、一人での空間は精神的安定を図る為、工夫していきたい。ソファなどをリビングに置いている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前から使い慣れた、身の回りの物で、ご本人にとって使いやすい物があれば持参して頂き、ご家族の写真など送って頂いたものは、居室に飾るように心掛けている。また、ベッドやお布団なども、施設では用意はしてあるが、ご自分の物を使用されている入居者様もいらっしゃる。		実際にご自宅から、家具や位牌などご本人にとって大切にしているものを、持参されている。
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	換気は、午後2時頃に、必ず窓を開けるようにしている。時間を決めているのは、忘れないように意識する為に決めている。また、温度計を設置し、温度には注意している。湿度についても、特に冬は、乾燥に注意し湿度を60%に保持するよう、職員間で意識している。		馴染みの関係や場所などが途切れないように、今後も支援していきたい。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自立した生活ができるように、トイレなどのスペースを広くとり、手すりも上下に動くようになっている。また、お台所も、キッチンカウンターになっている為、職員と入居者様が対話をしながら、調理が出来る様になっている。不安を取り除くことができる環境であると言える。		キッチンカウンターで調理をしながら、入居者様のお顔をみて声掛けしたり、状況を把握しやすい。
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	トイレや浴室、また居室などの表示をわかりやすく表示し混乱を出来るだけ避けるように心掛けている。		個人の能力に応じ、わかりやすく表示しているが、残存機能を充分活かし、混乱しない工夫が必要と思っている。その方の興味のあるものなどを、居室のドアなどに、飾るようにしている。(ポスターなど)
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	中庭やテラスにて、夏祭りやカレーパーティーなどイベントの時に)利用したり、普段もお天気の良いときには、おやつをいただいたりしています。		1階は、外にも出やすい為、中庭を利用することもあるが、特に行事の時が多い。日頃からもっと活用していきたい。

サービスの実績に関する項目

項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

ライフコミュニケーション泉が、モットーとしていますことは、「ご家族様と共に楽しむ」ということです。家庭菜園で収穫した野菜で、ご家族様や近隣の方と一緒にカレーパーティーなどを、毎年行っております。気軽にいつでも、ご家族様がお越しいただけるような温かいおもてなしを心がけています。また、運営推進会議が開催されるようになってから、地域の方との交流も深まり、ボランティアの方によりご協力を頂くことが多くなりました。「敬老会」や「クリスマス会」などの行事に、出演して頂いたり、家庭菜園もボランティアさんに手伝っていただき、入居者様はじめ、ご家族様や職員も収穫時が今まで以上に楽しみが増し、近隣の方などが身近に感じられ、温かく見守っていただいていることを実感しています。今後も、地域の方に支えて頂きながら入居者様やご家族様が安心できるグループホーム作りを目指して行きたいと思っております。

# 自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

## 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
・理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
・安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
・サービスの成果に関する項目	13
合計	100

## 記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

## 用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## 評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目( 1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目( 88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	ライフコミュニケーション 泉
(ユニット名)	泉 2
所在地 (県・市町村名)	神奈川県横浜市
記入者名 (管理者)	植木 清美
記入日	平成 21 年 1 月 10日

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

↑  取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>・理念に基づく運営</b>				
1. 理念と共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	運営理念を掲げ、理念に基づきけを行えるように心がけている。 理念として、入居者様の一人一人の個性や尊厳が守られ寄り添うケアを行うように掲げている。		運営理念は、毎朝朝礼で唱和しており、意識するように心掛けている。玄関、ホール、スタッフルーム、事務所、各ユニットの玄関などに掲示している。 今後も継続し、理念に沿ったケアを心掛けて行きたい。
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	新任研修や内部研修などを通し、随時理念については、意識できるように行っている。		新任職員の研修や内部研修などに盛込んで、良いケアが今後も、行う事が出来る様に、職員の意識を高め共有していきたい。
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	家族懇談会や運営推進会議などで、報告し少しでも、理解して頂けるように取り組んでいる。		今後も、運営推進会議などで、お伝えするように取り組み、少しでも、地域の方に理解していただけるように更に、取り組んでいきたい。
2. 地域との支えあい				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りてもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	夏祭りや、カレーパーティーなどの行事の際は、近隣の方に声掛けをして来て頂くようにしている。また、家庭菜園で収穫した野菜などをお持ちしている。回覧板を回す時も、ご挨拶を欠かさないように心掛けている。		近隣の方にお会いした時は、挨拶はもちろんの事だが、年に2回は、挨拶まわりをするように心がけている。また、現在3階フロアがあいている為、近隣の方に活用して頂けるように、近隣に声掛けし、民生委員の研修などにも利用していただいている。
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入しており、避難訓練や夏祭りなどに参加させて頂いている。		地域活動については、入居者様の身体的機能の低下に伴い、一緒に参加する事が難しい事もあるが、できるだけ地域活動に参加し、接点をもつように心掛けていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	介護教室の開催。また、運営推進委員会議の実施などにより、お伝えしていく場が増えていると思われる。		今後は、もっと積極的に取り組んでいきたいと思っている。民生員の研修などに参加させて頂いたりしているが、数的に少ないように思われる。今後は、意識を高めていきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員会議などで外部評価の実施について、話し合いの場を持ち自己評価についても、共通の認識をもつように取り組んでいる。		改善点の見直しを課題に、今後も、向上していくように職員全員が取り組んで行くよう努めていきたい。
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、3ヶ月に1回の割合で開催しており、状況報告している。会議では地域住民代表の方に、アドバイスを頂いて日頃のケアに活かしている。		運営推進会議にて、外部評価の報告を行っている。地域住民代表から良いアドバイスをいただくことが多く、とても有意義な運営推進会議であると思っている。今後も継続してくよう、努力したい。
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議の発足をきっかけに、市町村担当者と接する機会が増え、疑問点などわからない事は、気軽にお伺いするようになり身近に感じるようになった。また、市町村担当者も見学に来て頂いたり、介護教室のアドバイスなども頂いている。		直接窓口にも、伺うこともありますが、電話やメールでも必要に応じ行っている。市町村の窓口に行くようになり、市町村と共にサービスの質の向上に取り組んでいるという実感を持つようになったが、今後も質の向上を目指して、頑張りたい。
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	できるだけ研修には、交代で出席するようにしており、学ぶ機会を作るようにしている。必要に応じ、情報提供できるように心がけている。		後見人制度を利用している方はいますが、全体的には少ない。情報をお伝えできるように今後も研修などを行っていきたい。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人でも力をいれ研修をしているが、全体研修で職員が全員高齢者虐待防止について理解できるように、行っている。研修の中でも重要なことであり、虐待などあってはならない事と職員が意識するよう努めている。		虐待行為のないよう、周知徹底していく。また、虐待には、言葉によるものも含まれることを認識し言葉使い、マナーについてしっかりと学のように研修に取り組み、チェック表を作り心がけている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前には必ず、重要事項説明書を読み説明している。また、理解、納得されるように説明を行っているが、必要に応じ疑問点などその都度行っている。説明の後に、何かわからないことがありますか？と聞くように心掛けている。		必要に応じ、その都度、対応させて頂いていますが、不安や疑問がないよう対応していきたい。
13	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様が必要としている物や要望、不満などをお聞き出来るように、職員を居室の担当として決めて対応している。いつでも、自分の気持ちが、気軽に言えるように配慮している。		要望・意向に沿えるよう取り組んでいきたい。クレーム対策委員会があり、毎月会議を開催している。実際クレームが、現在のところないが、事例検討として研修をかねて行っている。ファイルもある。
14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	定期的に行っているが、状況に応じ、連絡している。来設時には近況の報告をしている。受診時の連絡など電話にて報告している。		写真やBP表をお送りして、近況報告している。体調不良時などは、必ず連絡をいれ受診する事を、確認してから受診し、その後の連絡も入れるようにしているが、ご家族と共有できるよう、入居者様の状況把握に努めていきたいと思っている。
15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	定期的に家族懇談会を行っている。御家族をお呼びしてイベントを定期的に行っている。玄関に投書箱が設置してある。その都度、ご要望があれば、お受けしている。		家族懇談会などで、自由に意見が言えるように配慮している。懇談会の中で、ご家族様それぞれに、意見やイベントなどの感想を言って下さる為、参考になっており、次回につなげることが出来る。
16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議やニュット会議を持ち話し合いをするようにしている。また、介護長会議の報告を行うようにしている。		頻繁に会議を持つようにして、職員の意見が反映出来る様にしていき今後も、サービス向上につなげていきたい。
17	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	職員の配置に関しても、確保出来ていると思う。近隣からきている職員がおり、状況に応じて出勤が可能。夜勤者も、夜勤専門ではなく、馴染みの職員である為安心できる。		ユニット内で調整して対応しているが、兼務の非常勤職員がいるため、必要に応じ勤務して頂いている。今後も無理のないように、柔軟に対応できるような体制をとって行きたいと思っている。
18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	人事異動は比較的少ない。法人は、グループホームの運営について理解を示しており、職員の異動に関しても、管理者の意見を聞いて対応している。代わる場合でも、最小限度に抑え、必ずご家族様には報告させて頂くようにしている。		異動により、入居者様やご家族様との信頼関係が希薄にならないように、配慮すると共に今後も馴染みの関係を構築していけるように、努力していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修や外部の研修など積極的に参加するように職員は交代で参加している。法人の研修では、管理者研修や主任研修などを行っている。		出来る限り、内外の研修に参加している。また、外部研修に参加した場合は、内部研修などで報告し、共有出来る様心がけている。
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	横浜市や神奈川県グループホーム協会に入会しており、協会の主催する研修などに参加し、情報交換や交流を深めている。		他のグループホームの職員と交流の場を設け、積極的に自分の職場だけでなく、視野を広げるようにしていきたい。また、サービスの質の向上を目指すよう取り組んでいきたい。
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	親睦会を定期的に行い、(3ヶ月に1回)カラオケなどで発散できるようにしている。また、食事会についても、イベントの打ち上げなどを兼ねて行っている。		定期的に行っているが、継続していきたい。職員には好評である。時々、食事会などを行い、コミュニケーションを図るようにしている。
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員の個性や、得て不得手を理解し、得意な分野を生かすようにしている。		イベントなど得意な分野を発揮出来る様な機会を作っている。職員の健康管理については、健康診断を定期的に行っている。勤務条件に関しても、就業規則に沿って守られている。
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	傾聴や会話する時間を多く設けるようにし、コミュニケーションを図るよう心がけている。		御家族より情報収集し、早期把握に努め、スタッフ間の情報の共有に努めている。状態を把握し、状況にあった対応ができるように支援していくよう今後も努力したい。
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居前のご相談については、ゆっくりとお話を伺う時間を取るように心掛けている。また、入居されてからも、生活の様子などを連絡しご家族様との信頼関係を築いている。ご家族様から、ご相談があった場合は、時間を作り、お受け		信頼関係の構築に努めていく。お話を聞く時間、態度などには充分配慮し、受け止める姿勢をもち、安心して相談ができるような体制をとっていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要とされている支援を把握し、優先順位や適切な対応が行えるように心がけている。 まずはお聞きすることが重要と思っている。その後の対応は必要に応じ、他のサービス機関につなげている。		早期対応を心掛け、状況に応じた適切な支援を行うように努める。また、相談者のニーズを的確に捉え、対応出来る様取り組んでいきたい。
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ご家族様やご本人の意思尊重しながら、少しずつ雰囲気馴染んでいただけるように、必要に応じ声掛けをしたり、今までの生活歴などを把握し、一気に全てを変えるのではなく安心して生活出来るように工夫している。		ご本人が、安心して生活出来る様に、温かく見守り信頼関係を築くように心掛けている。
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者様の得意な分野などを把握し、共通の話題を楽しみ喜びあったり、昔の事を思い出していただくように努めている。 また、生活の中で役割などがあり、喜んで取り組めるよう工夫している。 (お花の先生をしていた方に、お花を飾っていただくなど。)		ご本人の個性や、得意な分野などを十分に引き出し個々の残存能力に応じた支援を継続していきたいと思う。また、いつでも、入居者様と一緒に、寄り添って必要に応じたケアを心掛けていきたい。
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様の抱えてきた、苦労や不安などを少しでも、共にできるように、声掛けを行い、気軽に相談して頂けるような雰囲気作りを心掛けている。		ご家族様が面会に来られた際は、必ず声掛けをして、近況報告すると共に、ご心配などをお聞きするようにしている。今後も信頼関係を維持していくよう努力していきたい。
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ご家族とご本人の関係が築けるように、面会時など食事やおやつなどを一緒に頂くようにするなど支援している。		ご家族様と入居者様との関係がより良い関係に今まで以上になるように、今後も支援していきたい。
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今まで係わって来られた、関係が途切れないように心掛けている。 昔の学校の友人からお電話が、時々ある方や御家族様からお電話を取り次いだりしている。		馴染みの関係や場所などが途切れないように、今後も支援していきたい。
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	入居者様の中にも、気の合う方、合わない方などがいらっしゃると思うが、職員が把握して、毎日の生活が楽しく過ごせるように支援している。		入居者様同士が関わり合っていけるように、必要に応じて、職員が間に入り支援するように努めていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	ご家族様に連絡をとり、その後の様子をお聞きしている。病院に入院されている場合などは、お見舞いに行くようにしている。		お年賀状をお出ししたり、面会に伺ったりしている。出来るだけ、継続できるよう意識していきたい。
<b>. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	自分の思いや希望を言葉で表す事が出来る方だけでなく、思いを表すことが困難な方であっても、顔の表情や今の辛い表情などをくみ取り、一人ひとりの把握に努めている。		入居者様の一人ひとりの思いを把握しこれからも、意向に沿えるように努力していきたい。
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴や個人を尊重するように努めている。家族との話しの中での情報を得るように心がけている。		ご家族様からも情報を得るなど、出来るだけ多くの情報を収集し、その方らしい生活が守られ、継続して行くことが出来る様に、支援していきたい。
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	一人ひとりの生活習慣などを把握し、状態観察に努めている。排泄などチェック表の使用により、排便などの確認をするなど、把握に努めている。		1日の流れの中で、その方らしい生活ができるように体調の変化や精神的な変化など総合的に把握し、支援できるようにしていきたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	訪問診療の医師やご家族様と相談しながら行なっている。また、カンファランスを行い、介護計画に反映させている。		個々に応じた介護計画を作成するよう今後も行なっていきたい。また、日々の生活に反映したケアプランを作成し、実行していきたい。
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的に見直しをしているが、退院時や状況の変化にも応じている。ご家族様はもちろんの事、主治医などの指示があった場合反映するよう心掛けている。		現状に応じて見直しを行っているが、状況をしっかりと把握し介護計画作成に、取り組むよう努力したい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	情報を共有する方法として、朝の申し送りや業務日報などで確認して、介護記録に反映するようにしている。		情報の共有・申し送りなど周知徹底していく。 介護記録にもきちんと記録するようにしていきたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入居者様やご家族様のニーズに応じて訪問診療や訪問歯科診療、ビューティーヘルパーなど利用している。		要望に応じて柔軟に対応出来る様にしていきたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	運営推進委員会のメンバーに民生委員の方がおり、家庭菜園などのボランティアも兼ねて、色々とアドバイスを頂いている。 家庭菜園のじゃがいも植えなど、肥料についても教えていただいている。		自治会主催の消防訓練なども参加している。 地域資源の活用を今後も、多く取り入れていきたい。
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	地域包括支援センターの主任ケアマネージャーにアドバイスを頂いたり、必要に応じ連携を取りながら、対応している。		必要に応じ、他のサービス業者への連絡などを行なって行くように努める。
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターなど、必要に応じ連絡を密に行きように思ってる。 推進会議にて、オブザーバーとして地域包括支援センターの主任ケアマネージャーと協働している。		今後も、長期的に協働出来る様にしていきたい。 民生委員の方の協力も頂き、多面に渡り関わりを持っているが、これからもお願いしていきたい。
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院などがあるが、本人の希望やご家族様の希望をお聞きして、受診先を決めている。		昔からのかかりつけの病院など優先している。 これからも、ニーズに応えていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	専門の先生に診て頂いている。医師との関係についても、入居者様や職員も相談しやすく、良い関係を保持している。		専門の医師の確保については出来ている。また、訪問診療の医師も相談しやすく入居者様の状態を把握している。長期にわたり信頼関係を、保持していきたい。
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護職員は現在、常駐していないが法人内に勤務している為、相談などがいつでも可能である。		健康管理については、必要に応じて今後も相談していきたい。
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	退院に向けての取り組みは、退院計画書など病院からの計画書を元に、ご家族様と相談しながら、早期退院に向けて取り組んでいる。また、出来るだけ入院している期間を短くし、認知症が進まないように対応したいと思っている。		早期退院に向けて今後も、積極的に取り組んでいきたい。
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末のケアについては、ご家族様と面談するようにしているが、主治医も入って頂いて、面談している。その結果、職員にも伝え情報を共有するよう努めている。		職員間でケアカンファランスを開催し、情報を共有するよう努めてはいるが、日頃からご家族様と信頼関係をもち、繰り返し話し合っていく必要性があると思われる。
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	主治医の指示の元、ご家族様と終末についてご相談し、意向をお聞きして可能な範囲内で対応している。現在のところ、看護師がいない為、常に何か変化があれば、ご家族様に連絡し受診して対応している。		終末期のケアについては、今後の課題でもあると思うが、現在のところ、出来る限り、主治医と相談し指示のもとケアを行なっている。
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	なじみの物や使われていた物を持って来て頂いている。以前の暮らしを継続出来る様に心がけている。移動時には、細かい申し送りを行い継続できるように努めている。		御家族よりプライバシーに配慮しつつ情報を収集している。以前の暮らしを継続していけるように配慮していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>プライバシーについては、十分に注意している。自尊心を傷つけないような声掛けを心掛けている。個人情報についても、漏洩のないよう注意を払っている。</p>	<p>個人情報取り扱いについて研修を行ない、守秘義務の遵守の周知徹底を行なうよう努めているが、さらに、研修を重ねていきたい。</p>
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>意向や要望を伺うようにし、自己決定を促すようにしている。献立を作るとき等、何にするかを、お聞きしたり、作り方や好きな食べ物などをお聞きしたりしている。</p>	<p>自己決定が出来ない方も、自己表現できるように声掛けを多くし、本人の思いを表現できるよう努めていきたい。</p>
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>個人のペースにあわせ個別ケアするように心がけている。食事の時間が、個人によって遅くなることもあるが、個人のペースを大切にしている。</p>	<p>個人を尊重したケアを行っていきたい。時間の都合や職員の都合ではなく、ゆっくりと過ごせる様に努めていきたい。</p>
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>本人の行きたい美容室に行かれることも、以前はあったが、現在は、入居者様の要望が無い為、訪問理美容の方にやって頂いている。髪型などは本人に、お聞きするようにしている。</p>	<p>身だしなみは、理美容だけでなく、衣類などにも気を付けるようにしている。職員と一緒に洋服を選んだり、髪の毛をとかすなど行なっているが、身だしなみに興味をもつような声掛けをしていきたい。</p>
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>献立作りを一緒に行なったり、テーブルを拭いて頂いたり、おしぼりを作っていたりなど食事の準備を、手伝って頂くようにしている。</p>	<p>食事は入居者様と同じ物を頂いている。また、出来るだけ家庭的な雰囲気ですぐに食事がいただけるように、努めているが今後も継続し、温かい雰囲気を大切にしていきたい。</p>
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>嗜好も一人ひとり異なるため、できるだけ聞いて対応するように心がけているが、意志表示できない方には、顔の表情から読みとり、中でもたくさん召し上がっているものなどを把握するようにしている。</p>	<p>嗜好品については、ご本人やご家族様にお聞きして用意できるものはしており、ご本人の要望があった時お出ししている。</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄パターンを把握するように努めている。定時に排泄介助を行っているが、状況をみて随時、行っている。		自尊心を傷つけないような声かけ・誘導ができるように配慮していきたい。
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日については、日曜日以外は毎日、入浴できる体制をとっている。日曜日は、ご家族様の面会が多いため、ご家族様との時間に当てて頂いている。		入浴の楽しみ方として、昔ながらの風習を大切にしている。ゆず湯、菖蒲湯などを楽しんでいただくよう工夫していきたい。
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々々の状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	良眠できるように、生活のリズムを整えたり、日中も、個別に休息の必要な方には、対応している。		ご本人に合った生活のリズム作りを心がけているが、今後も行っていきたい。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	役割や楽しみを持ち生活の張りを持てるように努めている。レクリエーションやイベントなど楽しんで頂けるようにしている。家庭菜園の野菜などを時々、見に行き収穫を楽しみにしている。		家庭菜園をおこなっており、収穫している。また、収穫したものでご家族様、近隣の方をお招きしてカレー - パーティーなど行いイベントで楽しんでいる。毎年恒例で、御家族様にも好評です。
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理については、事故防止のため、法人で立替するということが、決められているが、外出した際お金のお支払いなど職員と一緒にするなど支援している。		現金などを使用する機会が少なくても、会話の中でお金のことを忘れないような工夫をしていきたい。
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	夏祭りや近隣の牧場に買い物に行ったり、食事やおやつを食べにでかけている。		外出する機会を多く設けるようにしていきたい。
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	梨狩りに出かけるなど、楽しめるように、外出をこころがけているが、全体的に少ないように思う。		外出は、身体的機能の低下もあり、年々少なくなっているように思われるため、今後は、意識して外出を行っていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	お電話をしたいと希望があった場合などは対応している。また、お手紙が来た時は、お渡しして、届いたお礼のお電話などの支援をしている。		ご家族様と入居者様の手紙のやりとりや、お電話でお話する機会をもっと多く持てるように支援していきたい。
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	いつでも面会に来られるよう時間制限をしていない。ゆっくり過ごせるよう配慮している。		ご家族様や知人の方もたくさん訪問にきて頂いている。一緒にお茶などを召し上がって、ゆっくりと談話できるように心掛けている。
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人でも身体拘束廃止委員会を設置し、身体拘束廃止については、力を入れて取り組んでいる。また、内部研修にても再確認し、拘束のないケアに取り組んでいる。		職員は、拘束0を目指す事を意識するように、日頃から取り組んでいると思う。また、どうしても必要な場合が生じた時は、ケースカンファランスを開催し、検討するように心掛けていきたい。現在は、対象者はいらっしゃらない。
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけない工夫は行っている。玄関に鈴をつけ、出入りには注意している。鈴をつけるなどの工夫については、職員間で鈴の音もどのような物にするか、検討してつけている。		外玄関のみオートロック式になっているが、その他の部分には鍵はかかっている。見守りを強化し、事故防止に努めるよう取り組んでいきたい。
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	安全確認表を作成し、1時間ごとにチェックしているが、チェック表のみに頼らず見守りを強化して、利用者様の安全確認を行なっている。		日中は、出来るだけリビングに来て頂きコミュニケーションをとるようにしており利用者様の様子が、わかるように配慮しているが、今後も利用者様の安全面を注意していきたい。
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	基本的には、危険性のある物は、鍵をかけて保管するようにしている。ただし、職員と一緒に、レクなどではさみを使用するなどその方の状態に応じて、行っている。		入居者様の状況に応じた管理方法について、具体的に1つ1つ、検討していきたいと思う。その時の状況によっても違うと思う。
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ひやりはっとを活用している。法人でも事故防止には力を入れて取り組んでいるものの1つ。職員も出来るだけ、ひやりはっとを提出し、毎月分析している。		安全対策委員会を設けて、取り組んでいる。ひやりはっと報告書は、職員が共有できるように、目を通して捺印するようにしている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	救急法など消防署にて研修があった場合、出席している。内部研修にて報告して、情報の共有に努めている。また、体調不良時の対応マニュアルがあり、参考にしている。		夜間帯の救急対応については、マニュアルがあり夜間緊急受診した場合も、サポート要員が対応するため、安心して、受診に付き添うことができる。
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	非常用の食料、備品は常備している。消火器、避難路についても定期的に設備点検している。避難訓練も自主訓練を行っている。		地域との避難訓練は、自治会の訓練と一緒に参加
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	ケアプランの面談時などにお話させていただいたり、お電話などでも、必要に応じてご連絡させて頂いている。		ご家族様と連絡を密にして、リスクを最小限に止められるようにしていきたい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	体調変化の早期発見のため、1日2回のバイタル測定を行っている。また、数値のみに頼らず、日頃より様子観察を行い、少しでも気が付いた際には、他職員に報告し情報を共有すると共に、ご家族への連絡を行うようにしている。受診が必要な場合、速やかに対応している。		入居者様の状態には常に注意して様子観察するように努めているが、入居者様の身体機能に伴い、早期発見と迅速な対応が必要と思われるため、日頃のバイタルチェックを欠かさないようにしていきたい。
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬チェック表などにて確認するようにしている。また、処方内容をファイルしており、いつでも見て確認することが可能である。		服薬に関する研修を行ったことがあるが、開催数が少ないため、定期的に、情報を共有するために、今後も開催していきたい。
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	下剤を出来るだけ使用せず、食事やおやつなどで便秘解消出来る様にしている。毎朝、ヨーグルトや飲むヨーグルトを付けるようにしている。下剤の使用については、医師に相談し、指示のもと行っている。また、下剤の種類についても、ご本人の状態にあわせて指示して頂いている。		身体機能の低下により、便秘になりやすく自然排便が困難になっているため、食材やメニューで工夫するようしていきたい。
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	口腔ケアについては、毎食後行っている。また、義歯洗浄も行っており、歯磨きが難しい入居者様には、口腔清拭をしている。毎週、訪問歯科診療があり、医師に相談しながらケアを行っている。		清潔の保持に努めて行きたい。職員が口腔ケアの重要性を認識する為に、研修に参加し報告会を行い、情報を共有している。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分、食事摂取量などのチェック表を作成し、一人一人を把握している。また、1日の水分トータルなども、記入している。		栄養計算は業者のメニューをお願いしている為、1日1食の分は、栄養計算ができています。
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症対策マニュアルがあり、法人でも研修を行ったり、区役所主催の研修にも参加し、内部研修にて発表するなど共有している。		マニュアルに沿って実施している。また、職員が手洗い、うがいのポスターを作成し、励行している。職員も、出勤時必ず行ってから、仕事に入るようにしている。
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食材については、十分に注意している。業者に発注した場合、納品時には確認している。また、食器や調理器具についても毎日チェック表を用いて消毒している。食材の賞味期限のチェックも行なっている。		食器や台所、調理器具などの衛生管理には充分注意していきたい。消毒などに関しては、マニュアル化しており、今後も取り組んでいきたい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関の周りには、季節のお花などガーデニングして、グループホームらしい生活感のある雰囲気作りをしている。		玄関周りは、明るいイメージを心がけている。玄関ドアも2枚扉になっているが、自動ドアになっているため、出入りしやすい。
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	やすらげる空間や場所をつくるように心がけている。また、場所だけでなく、観葉植物や季節の花などを飾り、落ち着いた雰囲気になるように、意識しています。また、音楽などを流し穏やかな生活ができるように工夫しています。		季節感を取り入れるように心がけている。出来るだけカレンダーなども自然の風景画などのものを飾るようにしている。
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングの周りに、いつでも自由に座れるように、椅子とテーブルを設置しており、フロアを歩きながら時々休憩出来る様に工夫している。また、喫煙場所を設けて他の利用者に配慮しているが、現在は、喫煙する方は、いらっしゃらない。		安らげるような工夫は大切だと思われる。グループでのコミュニケーション作りも重要ではあるが、一人での空間は精神的安定を図る為、工夫していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前から使い慣れた、身の回りの物で、ご本人にとって使いやすい物があれば持参して頂き、ご家族の写真など送って頂いたものは、居室に飾るように心掛けている。また、ベッドやお布団なども、施設では用意はしてあるが、ご自分の物を使用されている入居者様もいらっしゃる。		入居者様にとって使い慣れたもの、なじみのある物は安らぎが得られ、安心して生活が継続されるものであり、大切な事と考えている。また、ご家族様とご本人の気持ちを尊重するよう心掛けている。
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	換気は、午後2時頃に、必ず窓を開けるようにしている。時間を決めてるのは、忘れないように意識する為に決めている。また、温度計を設置し、温度には注意している。湿度についても、特に冬は、乾燥に注意し湿度を60%に保持するよう、職員間で意識している。		換気などについては、排便後など特に配慮するよう注意している。また、冷暖房に関しては、個別に居室内など、温度に注意し調節している。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自立した生活ができるように、トイレなどのスペースを広くとり、手すりも上下に動くようになっている。また、お台所も、キッチンカウンターになっている為、職員と入居者様対話をしながら、調理が出来る様になっている。不安を取り除くことができる環境であると言える。		身体機能に応じた設備や備品を整えるようにしたいと思う。また、危険なものがないように配慮していきたい。
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	トイレや浴室、また居室などの表示をわかりやすく表示し混乱を出来るだけ避けるように心掛けている。		個人の能力に応じ、わかりやすく表示しているが、残存機能を充分活かし、混乱しない工夫が必要と思っている。その方の興味のあるものなどを、居室のドアなどに、飾るようにしている。
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	中庭やテラスにて、夏祭りやカレーパーティーなどイベントの時に)利用したり、普段もお天気の良いときには、おやつをいただいたりしています。		今後もテラスや中庭をイベントなどに利用し、ご家族様や、近隣の方などをお招きしてコミュニケーションの場所にしていきたいと思っています。

サービスの実績に関する項目

項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

ライフコミュニケーション泉が、モットーとしていますことは、「ご家族様と共に楽しむ」ということです。家庭菜園で収穫した野菜で、ご家族様や近隣の方と一緒にカレーパーティーなどを、毎年行っております。気軽にいつでも、ご家族様がお越しいただけるような温かいおもてなしを心がけています。また、運営推進会議が開催されるようになってから、地域の方との交流も深まり、ボランティアの方によりご協力を頂くことが多くなりました。「敬老会」や「クリスマス会」などの行事に、出演して頂いたり、家庭菜園もボランティアさんに手伝っていただき、入居者様はじめ、ご家族様や職員も収穫時が今まで以上に楽しみが増し、近隣の方などが身近に感じられ、温かく見守っていただいていることを実感しています。今後も、地域の方に支えて頂きながら入居者様やご家族様が安心できるグループホーム作りを目指して行きたいと思っております。